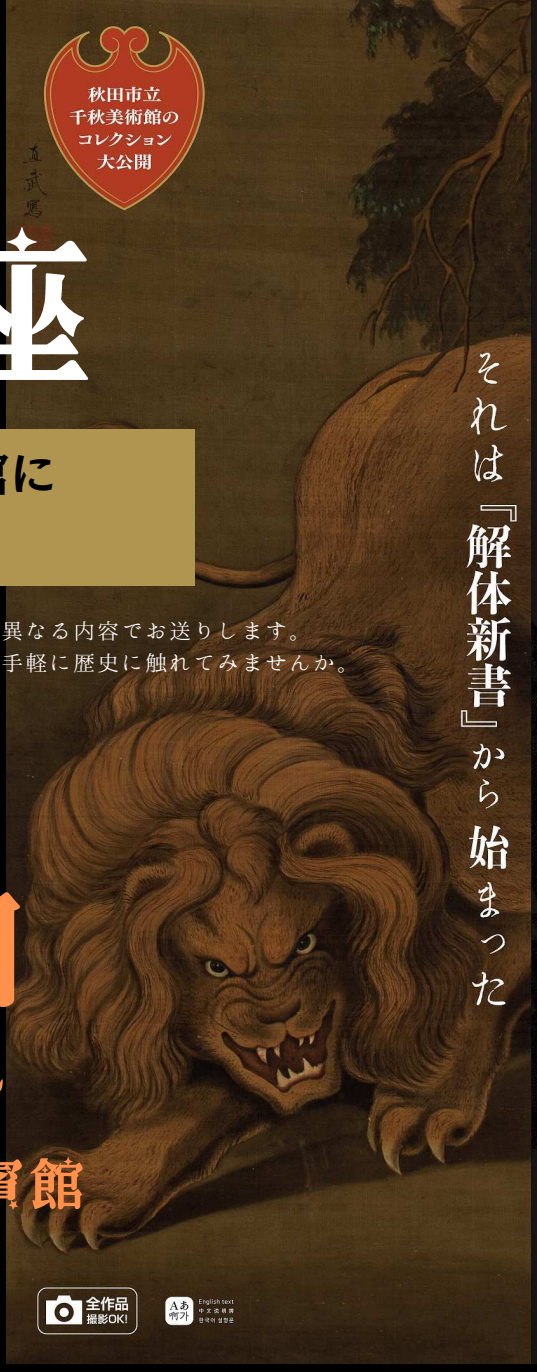
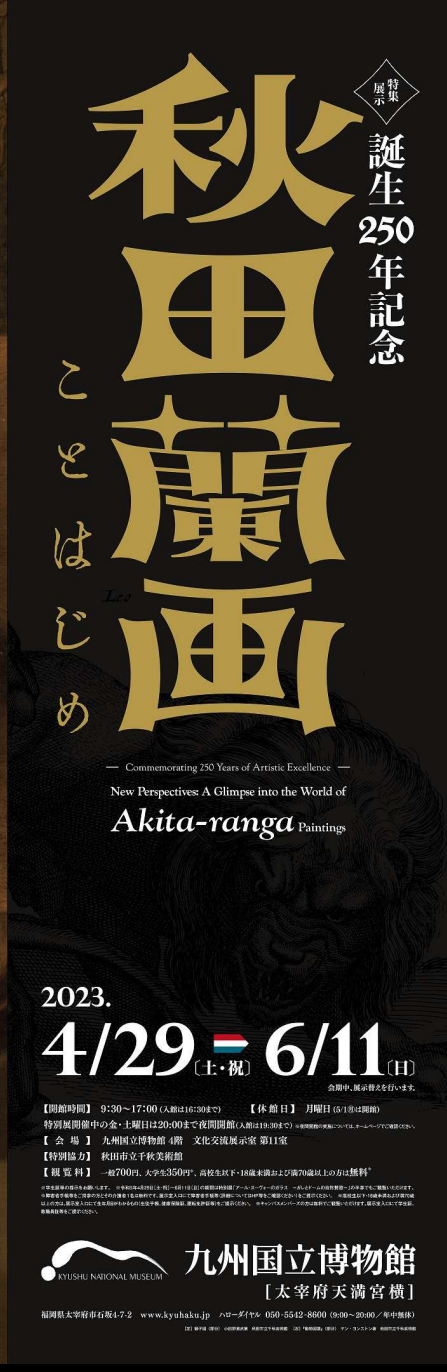
歴史講座

九州国立博物館が貴賓館にやってくる!

九州国立博物館・文化交流展示室の催しに合わせ、毎回異なる内容でお送りします。
この機会に、ぜひ九州国立博物館をより身近に、そして手軽に歴史に触れてみませんか。

2023年
5月13日
14：00 ～
旧福岡県公会堂貴賓館





「鎖国」の時代とされる江戸時代にも、日本では海外の文化が継続的に受容されていました。とくに享保5年（1720）に将軍・徳川吉宗がキリスト教の流入を防ぐ禁書令を緩和したころから、洋書の輸入が一気に増え、次第にヨーロッパの学問や芸術を学ぶ蘭学が盛んになります。その流行のなかで誕生したのが秋田蘭画つまり秋田の武士が描いた阿蘭陀風の絵画です。
江戸絵画にリアリズムの新風を吹き込んだ秋田蘭画は、いまから250年前の安永2年（1773）に秋田藩の藩主・佐竹曙山と藩士・小田野直武が博物学者・平賀源内と出会い、翌年に直武が『解体新書』の挿図を描いたことをきっかけに作り上げられました。この特集展示では、秋田蘭画の誕生250年を記念し、このジャンルの優れたコレクションで知られる秋田市立千秋美術館の名品を一堂に公開します。この絶好の機会に、東西の美を融合して斬新な絵画様式を創造した秋田蘭画の世界をお楽しみください。

※貴賓館内での作品展示はありません

場　　所：旧福岡県公会堂貴賓館

講　　師：九州国立博物館　文化財課
　　主任研究員　畑　靖紀

参 加 費 ：無料／入館料要

参加人数：20名

旧福岡県公会堂貴賓館
福岡市中央区西中洲6-29
【入館料】一般200円、児童100円
（※6歳未満、65歳以上は無料）

要予約
お電話（092-751-4416）
もしくは
左記QRコードから
お申込みください

主催：旧福岡県公会堂貴賓館（指定管理者：株式会社日比谷花壇）　協力：九州国立博物館